

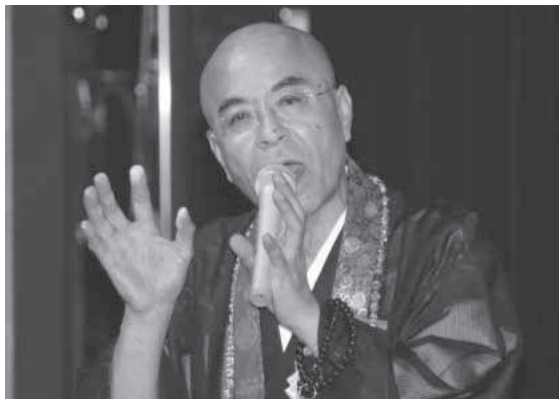
## 記念講演

「青少年の非行防止」道民総ぐるみ大会

### ■演題 For You

## 青少年の居場所づくりのために

### ■講師 浄土宗西居院住職 廣中 邦充氏



### —— 講師のプロフィール ——

昭和25年愛知県岡崎市生まれ。  
立正大学仏教学部卒業後、塾、会社経営を経て、平成  
2年より現職。  
現在、非行少年や引きこもりの子供たちを自宅に預か  
り、子供たちを社会復帰させる活動続ける。

〈著書〉

- 見えない虐待（NHK出版）
- 子どもは悪くない！（日本標準）
- やんちゃ和尚  
—399人の不良少年少女を更生させた熱血坊主(竹書房)

### はじめに

皆さんこんにちは。今日のご縁をいただきましてありがとうございます。

皆さん起立しましょう。全員立って、思いつき深呼吸しましょう。ぐうっと吸って、ぐうっと吐いていただく。そのまま右向け右。右を向いて、前の人の肩をちよっと触れてください。前の人の肩が凝っています。もみもみしてくださいね。「失礼します」と声をかけましたか。今度は反対を向いていたいて、「先ほどはありがとうございます」と言って、肩もみをしてあげてください。気持ちいいでしょう。さあ、座っていただきます。

今、「失礼します」と言って、「先ほどはありがとうございます」と声をかけました。これを呼応と言うんですね。声かけをした時に必ず応えるんだというのが、今の家族の中で、学校の中、地域の中、道民の中で欠けているのではないかなとつくづくと感じております。

皆さん一つ質問させてください。ご主人

は奥様の顔を、奥様はご主人の顔をしっかりと  
りと思ひ浮かべてください。思ひ浮かべて  
いただいて、もう一度生まれ変わったら、  
今のパパと一緒にになりたい、今のママと一  
緒になりたいと思う人は手を上げてくださ  
い。おゝいた。大好きと思ひがあるのかな。  
他の人は、今度こそは騙されんぞ、今度こ  
そはいい奥さんを貰うぞとそんな思ひが皆  
様の中にあるのかなと思うわけでございま  
す。

もう一つ質問させてください。食事して  
いて、「お代わり」と「もう一杯食べたいな」  
とご主人が言った時に、「ありがとう」と言  
うお母さんはいますか。ありがとうと言  
うお母さんは北海道に一人もいませんか。ま  
だ食べるの、明日の弁当が無くなっちゃう  
から、もう止めときなさいよですかね。結  
婚した時は、一杯作りましたね。これも食  
べてみる、これも食べてみると言つて、全  
部食べてくれるとすごく嬉しいのです。と  
ころが、1年経ち、2年、3年と経つと、  
まだ食べるのとなつてしまう。喜びの心を  
もつて料理を作つて、ありがとうとお母さ

んたちが声を出していいのかなと、そうし  
た時にご主人が奥様にありがとうなど、ま  
た、子どもたちもありがとう、ありがとう  
と家族の中で訝してくるのでないかなとつ  
くづくと感じます。

平成20年度社会を明るくする運動が全国  
で展開し、今日は、元お嬢様、元お兄様が  
たくさんお見えになつていただいております。  
60代の方、手を上げてください。ほとん  
ど60代ですね。60代のことをヤングオー  
ルドと言います。ところが60代になると「く  
たびれ」がやつて来ます。

70代の方いますか。(手を上げた近くの参  
加者に) お父さん70代ですか。若く見える  
ね。僕と握手すると10年若くなりますよ。  
ちよつとふくよかな人が僕と握手すると体  
重が2キロ減るようございます。70代の方  
をオールドと呼びます。ところが70代にな  
ると「日に日にくたびれ」がやつて来る。  
80代の方お見えになりますか。おつと、  
お見えになりましたね。この大会に80代  
の方が参加するのは最高のことですね。皆さ  
ん拍手しましょう。80代をスペシャルオー



ルドと呼びます。80代になると「刻々とく  
たびれ」がやつて来るのではないかと思  
っております。

今日はこの講演にお招きいただいたこと  
を心より御礼申し上げます。

私は、愛知県岡崎市からやつて来ました。  
徳川家康様のお膝元でございます。人口は  
38万人で、すぐ隣にはトヨタ自動車がそび

え立っております。私の寺では、北は北海道網走、南は沖繩本島、石垣島までの子どもたちが生活しております。

今は、第4次の「さらりとした非行型」と言われています。それはタバコを吸ってもいいよ、家出してもいいよ、酒を飲んでもいいよというさらりとした非行型であります。第3次の非行型は、昭和64年ぐらいの「遊び型非行」と言います。第2次の非行型は、東京オリンピックが終わった頃の「社会に対する非行型」です。第1次の非行型は、昭和26年頃の「生存のための、生きるがための非行型」です。今、日本の社会の中には、荒れに荒れ、いろんな事件が起きており、これを「さらりとした非行型」と自身は定義づけさせていただいています。

## 一． 駆け込み寺

私の寺では網走から石垣島までの子どもたちが生活しています。ちょうど12年目になり、昨日まで589名の子どもたちがお寺を卒業しました。今現在15名の子ども

ちがお寺の中で生活しています。

一番下の子は2歳のマリナ、それから小学校2年生のユリナであり兄弟です。何故こんな小さな子どもたちがお寺で生活しているのかというと、お父さんとお母さんの離婚です。お母さんとマリナとユリナが住んでいた家が競売によって取られてしまい、お母さんは悲しみ、叫び、岡崎市の福祉課に相談に行きました。そうしたら、預かることはできません。もうどここの施設も一杯です。まだ2歳のマリナはおしめをしているし、ほ乳瓶を持たなければ寝られませから、乳児院に入れなくてはいけない。小学2年のユリナは自立支援施設に入れなくてはいけない。兄弟で一つの施設に入ることには不可能なんです。また、愛知県内の施設に入ることにも不可能です。どこも一杯で不可能でしょう。もしかしたら、小さなチビさんは九州福岡に行かなくてはならない。お姉ちゃんが愛知県で住めても、一緒に住むことは不可能ですと言われ、お母さんは悩みに悩み、お寺に助けを求めて来ました。私もすぐく悩みましたが、お寺に

る子どもたちに相談すると、子どもたちはこんなに可愛い子たちが兄弟別々に暮らすのは可哀想だよ。お寺で預かってあげようよと言ってくれた結果、お寺から保育園へ、お寺から小学校へという形で生活をしております。時々お母さんは子どもたちに会いに来ますが、会ってしまうと、里心がつく、いろんな思いがあるということで、30段階の陰に隠れて、マリナとユリナの姿を見て泣いて帰っている状況です。

今、お寺に入りたいと順番を待っている子どもたちが1938人います。そのうち北海道の子どもたちは78人いるのが、現実の有様です。寺では食費も預かり賃も1円もいただいております。

テレビ、ラジオ、雑誌でコメンテーターをやらせていただいておりますが、私が常々訴えさせていただいているのが、お寺の坊主よ目を覚ませ、宗教者よ目を覚ませ、心の時代と言われている中で、儀式も大切だけど、法を説くのが大人の役目でないのかなと、大人も苦しみ、子どもも苦しむ世の中で、坊主ももつとつと苦しめと常々

思っているわけでありませう。

昨年、一昨年といじめが原因で子どもが自殺していましたが、私はテレビ、ラジオ、講演で、「自分の大好きな娘や息子が自殺するまで気がつかない親は、親でない」とはつきり言っています。学校が悪い、教育委員会が悪いと、みんな人のせいにしてしまうのが今の世の中ではないかと思えます。北海道で自殺をしてしまった子どもがいたとして、学校が悪い、教育委員会が悪いんだと言われて、その時、知事さんが、自殺した子どもの家庭の中に原因があるんだと言ったら、知事さんはクビでしょう。議会の先生たちもそこは同じです。

また、私は昨年まで、子どもたちを非行から守るプロジェクトとして、自民党政務調査会の講師もやっていました。自民党の国會議員、文部科学省や警察庁の人たちに、「政治家が何が分かるんだ。大学の学者が何が分かるんだ。県議員が何が分かるんだ。市議員が何が分かるんだ。みんな机上の上でしか物を言わないではないか」とはつきり言わせていただきました。

家庭の中の温もり、豊かに育っている子どもたちは、決して不登校にもならない、非行にも走らない、また拒食症、過食症、潔癖症、DV虐待心身症には遭わないのです。「おじさん助けて。お父さんもお母さんも分かってくれない。学校の先生も分かってくれない」と今日は四国から、今日は秋田県から、今日は山形県からと、毎日毎日、子どもたちが助けを求めてお寺にやってきます。

## 二二 更正事例I

昨年、夏休みの少し前、私が広島へ講話に出かけていた時、お寺で生活している網走出身のモーちゃんから「おじさん、今、お寺に神奈川県相模原から小学4年のリナという子が家出して来たよ」と電話を受けました。私は、「おじさんの帰りは20時ぐらいになってしまいうから、その子とお寺の中で遊んでいてね」と言って、いったん電話を切りました。また午後2時ぐらいに「リナのお父さんとお母さんが車で迎えに来たよ」と電話を受けました。電話の奥では、

お姉ちゃん助けて、お兄ちゃん助けてと帰りたいくないよと叫んでいる声が聞こえてきました。

リナが家出したのは日曜日でありました。お母さんが、朝、目を覚ました時いなかったが、日曜日だから散歩でも出かけたんだろうかなと思っていたら、時間が過ぎて19時になっても、20時になっても帰って来ない。これはおかしいぞとなり、友達の家へ電話したり、近くの公園を探したりしたが、それでもいいない。学校に連絡したら先生が飛んできて、事件に巻き込まれているかもしれないから警察に届出をとということで、お父さん、お母さん、先生が相模原警察署まで家出人捜索願を出しました。その後、引き出しの中などいろいろなところに手がかりを探しましたが結果、リナが外出する時の鞆が見つからない。インターネットを開いてみたら、「相模原から小田原まで電車で、小田原から新幹線に乗って豊橋まで、豊橋から名電に乗り換えて東岡崎で降りて、東岡崎から豊田市行きのバスに乗り、岩津町で降りて、徒歩10分で西居院というお寺へ」

という記録が残っている。ここに違いないだろうとなり、お父さんとお母さんが車で  
お寺までやって来たのです。リナを見つけ、  
お母さんはワンワン泣いてリナを抱きかか  
えたんですが、父親はリナを睨みつけ、今  
にも殴りかかりそうだったそうです。そし  
て、両親は明日学校に通わすからと言って、  
リナを無理やり引きずって帰ったそうです。

夜8時、お寺に戻った私は、子どもたち  
にいろんな話を聞きました。夫婦が残した  
名刺をみると、父親は東京の大病院神経  
内科の医者様、お母さんも相模原の大病  
院の神経内科のお医者様で、医者同士の間  
で生まれた一人娘がリナでした。私はリナ  
の自宅に電話をかけ、親に「今からリナを  
連れてお寺に戻ってこい。もし今日中に連  
れて来なかったら、東京の大病院の神経  
内科に乗り込むぞ。その後、相模原の大学  
病院の神経内科に乗り込むぞ」と言ってや  
りました。

そうしたら、夜中の2時頃、一家は再び、  
車で乗ってやって来ました。ドアを開けた  
ら、リナらしき子が飛び込んできて、「おじ

ちゃんありがとう。リナ帰らなくていいよ  
ね」そうだな。もう朝早いから、今日はも  
う寝なさいと言ってやりました。

それから、リビングで父さんとお母さん  
に話をさせていただきました。私は「あな  
たたちは医者かもしれないけども、父親で  
も母親でもない。自分の娘が家出をするま  
で気がつかない親は親でない。口と腹は違  
うだろうが。リナは返さない」とは言いま  
した。お父さんもお母さんも怒り心頭でし  
たが、僕に病院まで乗り込まれたら大変だ  
と堪えておりました。帰り際に、私は「明  
日の朝一、ファックスを送ってください」  
とお父さんにお願ひしたら、お父さんは「何  
を書けばいいですか」とが尋ねました。「そ  
のファックスの紙には、リナありがとう。  
お父さんの名前を直筆で字を書き、お母さ  
んの名前を直筆で書き、ファックスで送っ  
てほしい」と申しました。そうしたら、お  
父さんは「坊主、俺は仕事を休み、こんな  
に体が疲れてまで、2回も愛知県に来たん  
だぞ」と怒りましてね。私は「お父さん、  
それが分かるまででリナは帰しませんよ」

と切り返しました。

翌日の朝、ファックスが送られてしまし  
た。お父さんとお母さんからのファックス  
にリナは嬉しそうにしてましたが、この  
ファックスをプイッと捨てました。「おじち  
ゃん、これね、全部ママが書いたんだよ」と  
言いました。

3日目の夜、私はリナの自宅に電話を掛  
けさせていただきました。「あなたたちはま  
だ気がつかないのか。リナが産まれた時の  
アルバムを見なさいと。2350グラムで  
産まれたリナ。子どもが産まれた時、こん  
なに可愛い子が家に生まれてくれた。きっ  
と神様か仏様が運んでくれたんだろうとい  
う思いの原点に戻れ。リナが俺たちの子ど  
もでいてくれてありがとうという原点に気  
がつけ」と説きました。朝方の2時、3時  
までお父さん、お母さんは話し合ったそう  
です。

そして4日目、パパとママが書いたファッ  
クスが届きました。リナはお父さんとお母  
さんの書いてある所をじっと見てまして、  
それから涙がポロポロと出てきました。5

日目、6日目、7日目には、あの父親がありがとう、ありがとうと50回ぐらい、母親もありがとうと50回ぐらい書き添えたファックスが来ました。そしたらリナはうわーっと泣き声をあげて叫びました。

私がお父さんお母さん迎えにおいでと呼びかけら、お父さんお母さん車でやって来ました。車が、僕とリナが遊んでいる階段の下にやって来ました。リナはお父さんと目があって、あの父親が階段を駆け上がって、「パパが悪かった。ゴメンなゴメンな。ありがとう」と、母親も「ママが悪かったのよ。悪かったのよ」と言って、3人で喜んで帰っていきました。

私、リナとメールのやり取りをいつもしています。去年10月に来たリナのメールには「おじちゃんありがとう。リナね神経内科のドクターになることを決めたの。土曜、日曜は早朝塾に行つて、一生懸命頑張っている。冬休みに一杯宿題持ってお寺に行くから、おじちゃん泊めてね」と来ました。子どもたちの苦しみ、叫びに、大人たちが気がついていないのではないかなと思うの

です。

### 三、更正事例Ⅱ

次が、去年8月に少年院を仮退院してきた19歳のヒロシです。お父さんお母さんが再婚し、お母さんの連れ子がヒロシです。一昨年夏過ぎにお父さん、お母さんがお寺にやって来て、「先生、ヒロシはもう2回目の少年院です。あの子は豊田市の暴走族の総長でした。民事事件と傷害事件を起こし、今2回目の少年院に入っている。来年（現在は去年）の8月、仮退院して出てきます。もう自宅でみる事ができないので、お寺で預かってくれないでしょうか」とお父さんお母さんが言いました。私が「あなたたちは少年院に面会に行っているのかな」と尋ねると、「初めは行つたけど、ヒロシが作った借金が一杯あるから仮退院するまで、私が働いて返さなくてはいけないから、面会に行くお金もない」と言う。私は名古屋の保護観察所に彼の面会手続きを取りました。そして少年院にお父さん、お母さんと一緒に行ききました。

その少年院で始まって以来の出来事が起きました。それはヒロシが席につくなり、「オヤジー、オヤジー」と大声を上げ、「お前が俺をちゃんと導かなかつたから、俺は今ここに入っているんだ」と叫び、机をガン叩きました。その後、彼の叫び声は「オヤジー」という声だけなんです。

古今多難とは、昔も今も多くの難ありとこのことです。これを万葉が仮名にすると「ここかな」と詠めるでしょう。ヒロシがタバコを吸った時、髪の毛を染めた時、無免許でバイクに乗った時、そこが我が家の一大事であつて、叫び声であつたのではないでしょう。お父さんは、お母さんの子どもだと遠慮し、何も注意をしなかつた。その叫び声ではないでしょうか。

去年8月、私が身元保証人になり、彼を預かってまいりました。8月一杯生活リズムを取り戻すためお寺の中で生活しました。その後、ヒロシが「おじさん、俺、整備士になりたい。何処か自動車屋で住み込みで働かしてくれないかな」と希望したので、私は、愛知県小牧市の友人に頼み、彼を住

み込みで働かせました。

9月1日から修理工場で働きはじめた彼は、朝8時に義理の父親に「おはよう。これから働きに行くよ」と毎日電話をかけているんです。これは何故かというと、少年院で彼が「オヤジー」と叫び声をあげた時に、お父さんは「ヒロシ俺が悪かった。許してくれ」と謝り、二人で肩を抱きながらワンワン泣き叫びました。初めてヒロシの心とお父さんの心が一つになったんでないでしょうか。これが故に「ヒロシはおはよう、今から仕事だよ」と言う。これも子どもたちの叫び声ではないでしょうか。

#### 四. 寺の卒業生から学ぶこと

お寺の卒業生は、開業医のお医者様、小学校の先生、会社経営のとび職などの仕事に就いております。

開業医のお医者様というのは、暴走族で、高校1年生の時に38人引き連れて、お寺にバイクでやって来て、「おじさん預かってくれ」と言うんです。お寺での生活が1週間経つと「おじさん、俺やっぱり暴走族

解散するよ」と決意、それから彼は勉強を重ね秋田大学医学部に入学し、ドクターの資格を持って、豊田市の病院に勤務。夜の会合で横に座った看護師に「岡崎の変わった坊さんの所で生活したことがあるんだ」と言ったら、「それって廣中というおじさん

でないの。私もその卒業生だもの」ということです。この女性も元女暴走族の総長でしてね、これが縁で二人は結婚して、循環器呼吸器の病院を経営しております。

このようにいろんな子どもたちがお寺から卒業しております。私は常々子どもたちに「逃げるなど、逃げれば追われるぞ。子どもも逃げるな。大人たちも子どもから逃げるな」と言っております。

ところが、親たちは遠慮しているのに対して、子どもたちは「寂しかった。とにかく寂しかった」と叫び、心の成長が遅い子どもが多いのではないのでしょうか。私は「決して子どもは悪くはない。家族の中に全て原因があるだ」ということを表からはつきり言っております。そして、学校に行かなくなってしまう、いじめに遭ってしまうのは、

「家族の中に温もりがないからだ」と常々訴え続けています。

私は、トヨタをはじめゼネコンなど全国で社員研修をやらせております。

ここで会場の皆さんに質問させていただきます。ご主人が出勤する時、玄関の外に出て、「行ってらっしゃい」とご主人送り出している方、手を挙げてください。はい、北海道は多いですね。すばらしいことです。

この間、東京で女性ばかり1000人のフォーラムがあった時、同じ質問した時、玄関の外に出ての方は、30人ぐらいいました。会場で一人の女性に訊くと、「私は布団の中で送り出しています」と答えたので、私は「お前の家は終わったぞ」と（笑い）。

これは子どもたちにとつての後ろ盾ということなのです。男は企業戦士で、仕事に行きたくないという気持ちなるんです。そこでママが気持ちよくパパを送り出して、そしてパパが帰ってきた時に気持ちよく迎えてやる。その迎えの中にいろんなものがあるのではないかと思います。夫婦とは、中国の儒教の教えの中に徳のレベルの中で

一緒だという教えがあります。あのおじいちゃんはずごく徳のある人だとは使われなくなっただけで、それに使えている奥さんも同じぐらい徳のあるレベルだということです。徳とは正しき人、そして優しき人、だからみんながその家にやって来る、それが徳というものです。

私は、不登校、非行、過食症、拒食症、潔癖症、引きこもり、DV虐待、心身症、いじめはこの夫婦の徳のレベルが原因としていると定義づけております。私はカウンセラーであり、精神科、心療内科に通っている人たちに処方箋を出せるだけの力を持っているから言えるんですが、0・4%ぐらいの人は先天的な病気により不登校や非行に走ったりする一方で、もう一つは、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん「徳のレベルのずれ」によりお孫さんが不登校になったり、非行に走ったりするのです。この間、高校1年生が尋ねてきました。「おじいさん俺、学校に行けなくなりました。何故行けなくなっただのか考えてみると、俺すぐくお祖父ちゃん、お祖母

ちゃんに可愛がってもらった。気がついた時にお祖母ちゃんがママをすぐ叱っていた。僕がママを守ってあげなくてはいけなから、学校に行けなくなりました」と言います。そういう子どもたちも沢山いるんですね。

私はワルのワルの大ワルです。人の200倍以上遊んだ人間です。今57歳です。嫁さんはマチコと言います。この7月3日に58歳の誕生日を迎えました。この奥様とは、中学1年生の5月8日からずっとつき合っていて、もう40数年が過ぎました。現役の看護婦をしております。岡崎の市民病院の救急外来にいてナンバー3でございます。何がナンバー3かという、太さがナンバー3でございます。

結婚して33年経ちましたが、私は奥様に「お母さんおはよう」と言い、必ずその後「ありがとう」と言います。これを33年間言い続けています。僕の妻でいてくれてありがとうございますという思いを込めて、もう33年になります。皆さん、主人にママに感謝という思いはあるが、なかなか言えないでしょ

う。

会場にお集まりの皆さんたちは、今日家に帰りましたら、パパの前に手を合わせ、奥様の前で手を合わせて言ってください。波阿弥陀仏、波阿弥陀仏と思われる、もうそんな大会行くなと言われてしまうかもしれないませんが、そのぐらいの心の持ち方というのが必要でないかと感じています。

北海道にも、北星余市、あのヤンキー先生にお世話になった生徒も一人おります。余市の学校からお寺に逃げてきた子です。我が子は自分の子どもと見えてしまいがちですが、自分の子どもでないです。この北海道から自分の子どもを預かり、心の成長、体の成長といったいろんなものを習得し、この北海道にお返しをするということではないでしょうか。子どもたちを命がけて育てていこう。広く言えば、この日本という国にお返しをする。少し封建的かもしれないが、この大会に出席している役員の人たちだけではなく、北海道全ての大人たちが、民生委員児童委員であり、保護司であり、青少年育成委員であり、更正保護女性

会の会員なんだという思いを持たなければ、道民総ぐるみ青少年非行防止というのは無理ではないかと思えます。

毎年、私は全国小学校中学校教育講演会に38校ぐらい行っています。しかし、私は生徒の隣に必ず親がいなければならぬと、生徒と親と一緒に参加しない教育講演会はお断りしております。何故かという話を



聴いてほしい親たちが出てこないからです。

それは学校のマスターベーションであり、PTAのマスターベーションなんです。99%子どもたちも頑張っている、子どもたちの苦しみを親たちが分かろうと頑張っている、学校の先生たちも頑張っている、三者一緒になって頑張っている、それが教育講演会です。参加された方には何かを学んでもらいたい。私は講演料が5000円でも行ってあげますよと言っています。

父親像とはイコール教師像と言っておきます。先生たちには「あなたたちは教員や教諭でない。教師なんだから自信を持ってやっていたきたい。親たちを意識改革していかなければならない敬うべき人なんだ」と常々言っています。

事情により、お母さんが父親をやっているれば、お祖父さん、お祖母さん父親をやっている家庭もあります。父親像のない家庭、存在感の家庭の子どもさんたちは学校の先生たちの言うことも聴かない、ルールも守ることもできません。子どもたちの未来像というのはここにあるんだ。だから家

庭の中がもつとしっかりしれよと言いたい。

## 五. 私からの提言

今日皆さんに提言したいことは、できれば北海道から我が家のルールを作ろうよという運動を発信していただきたいと思っています。去年、豊田市の民生委員児童委員90周年の記念講演にお招きいただいた時、理事長さんに「我が家のルールを作ろうよ。これを民生委員児童委員協会から発信していこうよ」と提言させていただきました。立ち上がりには1年かかりましたが、豊田市全ての家庭が、我が家のルールを作ろうよと、親たちから子どもたちにルールを、子どもたちから親たちにルールを作ろうよと、運動が行われています。せっかくこの北海道では、「道民家庭の日」に家族のふれあいを大切にと提言されているのですから、ぜひ、立ち上げていただきたい。

子どもたちから親たちへのルールは、第1条：「お母さん間食をするな」「お父さん家の中でタバコを5本以上吸うな」「小遣いは決まった日の決まった時間によこせ」。親

たちから子どもたちへのルールといったら、  
第1条：「朝ご飯は一口だけでも食べて行  
けよ」「部屋の整理整頓をすれよ」「門限は  
何時でだぞ」というようにですね。我が家  
のルールというのはそれぞれの家庭によつ  
て違うと思うんです。そこに家族の中のふ  
れあい、コミュニケーションが出来るんでは  
ないでしょうか。そして我が家のルール  
づくりを豊田から全国に発信していこう、  
豊田から世界に発信していこうが今の子の  
夏休みの課題でございます。

ぜひ北海道でも北から発信していけるよ  
うな、そしてこんな変わったルールもある  
よと。その家族の中のコミュニケーション  
をいかに持たせるか、家族の中のふれあい  
を大切に、毎月第3日曜日の道民家庭の日  
というものができているんだから、そこに  
次なるものとして我が家のルールづくりが  
求められているんじゃないかなと考えます。  
受け継ぐもの大切ですが、昔はお天  
様が見ているぞ。うそをつくとえんま様に  
ペロを抜かれるぞ。ご飯粒残すと目がつぶ  
れるぞという言葉がずっと伝わってきまし

たでしょう。今、お弁当食べている時、お  
弁当のふたに付いたご飯粒に手をつける人  
はいなくなつたでしょう。すぐにおかずを  
食べたり、ご飯に触れてしまう人たちが多  
くなつてきた。心の時代と言われているこ  
の時代に私、去年、常陸宮殿下から東京で  
表彰を受けました。その時、常陸宮殿下は  
今、日本は心が荒れに荒れている時代であ  
る。昔はお天様が見ているぞ、ご先祖様の  
罰が当たるぞといつて日本の文化と伝統が  
伸びてきましたが、今、日本の中は、荒れ  
はてた事件ばかりであると本当に危惧して  
おりました。

古着物を大切にする受け継ぐことの大切  
さ。この北海道が出来上がったというのは、  
開拓民の人たちが血と汗の結晶で今の北海  
道というものがあるんではないでしょうか。  
あれだけ荒れはてた雪の街を、あの寒い街  
をあの開拓民の人たちが一生懸命、一生懸  
命やってきました。今、開拓民の人たちの心  
原点に戻るべきではないかと思うのです。  
出合いの中でいろんなものが解決してい  
くんだらうなと私は思っております。僕な

んてお寺に入ったのは平成元年です。それ  
まで深夜スナックを2軒経営し、塾を経営  
し、ソーラーの会社を経営し、儲かって儲  
かってしよがなかつたですね。遊びに遊  
んだ人間でしたが、平成元年、父親が倒れ  
まして、心の時代が来るだろうということ  
で、頭を丸めまして、全てを人に譲りまし  
て、お寺に入らさせていただきました。し  
かし、平成2年に、檀家様たちに就職披露  
した新参式には、総代様からいただいた名  
簿は38名しかなかった。38名しかない。  
20年か30年経たないとだれも死にはせんと、  
仕事がないんです。そうして今、檀家様は  
258軒ほどになりました。また、全国を  
駆けめぐっていくわけでありませぬ。

今年の春に、沼津の小学校に赴任したユ  
ウスケ君という子がいます。このユウスケ  
君は小学校4年生、5年生、6年生、中学  
校1年生、2年生、3年生の9月1日まで  
学校に行きませんでした。行ったのは中学  
1年生の入学式で、車の中で迎えたのであ  
ります。9月1日にお寺にやって来ました。  
9月2日から10月2日から1回も学校を休

みませんでした。衝撃的なことはこのたった3ヶ月の中で身長が12センチ伸びたことです。1ヶ月で8センチ伸びた子もいますよね。これはどういうことかと言うと、心の成長と体の成長が止まっていたんだという事です。私は、子どもたちは子どもたちで絡み合いをしていかなければ駄目だ。コミュニケーションを持たなければ、心の成長も体の成長も止まってしまうぞと常に訴えております。

さて、これだけ頑張ったんだから、自宅から行ってみようよとユウスケに働きかけたところ、自宅から1日目、2日目、3日目と行きましたが、4日目から行きません。お寺から毎日行けるのに、何故自宅に戻つたら行けないんだろうとかというところ、家庭の中に原因があるからなんです。朝6時半にユウスケのお母さんから電話がありました。先生、責任を取ってください。あなたが急激に学校に行かせたからその反動で学校に行けなくなってしまったんですよ。そして、その日の8時半にスクールカウンセラーからも電話が来ました。ユウスケ君

来れないですよ。先生が早く行かせるからいけないじゃないのですか。私は「わからんやつがいろんなことを言うな」と電話を切ってやりました。

不登校の子たちが学校に行こうとすると、朝、お腹が下っちゃう子、熱の出る子、頭が痛くなる子、いろんな子がいるんですね。ユウスケの場合は、お腹がピーピーそして硬直です。お母さんが車に乗せて学校まで行くんですが、ユウスケはびくりとも動きません。学校の先生たちが今日入れれば、卒業式までちゃんと頑張れるぞ、教室に入ってみな。しかしユウスケは動きません。

学校から電話を受け、私が行くんです。私は、車の中のユウスケをぎゅうと抱っこしてやって、ぎゅうと握手してやって、さあ行くぞと言ってあげる。これを三歩の距離と言います。一歩、二歩、三歩。夫婦の距離も常に三歩の距離を保ちなさいよ。親子の距離も常に三歩の距離を保ちなさいよ。ということですよ。

夫婦の距離も三歩の距離保ちなさい。先生と生徒の距離も三歩の距離保ちなさい。

上司と部下の距離も三歩の距離保ちなさい。学校の中では共に学び合うということです。寄り添う心というのは一緒にということですよ。僕は常にマリナにもおじさんと一緒に保育園卒業しよう。おじさんと一緒に小学校卒業しよう。おじさんと一緒に高校卒業しようと言っています。おじさんが一緒に学校に行ってくれるから行けるといいます。何かあれば、おじさんに助けを求めれば、おじさんが解決してくれる。これを後ろ盾といいます。何かあれば、おじさんが守ってくれるから、安全で安心だということであり、この後ろ盾というのは出会いです。父親であり、母親であり、学校の先生であり、スポーツであり、大人たちとの出会いはということではないでしょうか。この後ろ盾というものを一つの対にした教育を全面に進めております。

そして、もう一つは寄り添う心と一緒に対にした教育が、日本の中で全面に走りまわっております。ただこれは机上の上なんです。朝のおはよう、あれ、こいつおかしいぞ。今日は何かあったのかな。それ

をつかみ取れる。子どもたちが右足から一歩踏み出すか、左足から一歩踏み出すか、それをつかみ取れ。歯ブラシのスピード、顔を洗うスピードがどうだろうか。それをつかみ取れ、それが教育ということではないでしょうか。それぞれの個性をいかに導き出すかです。お寺の子どもたちにも僕を上手につかみだせない子どももいます。同じ屋根の下に住んでいるのですが、そんな子とは交換日記をやっております。ひとりの子が僕を上手につかむことができないから、携帯でメールでやりとりしています。これも一つのやり方です。自分の大好きな息子や娘のその動作をつかみ取れよ。

25年来お付き合いさせていただいている鹿児島から出てきたヤマゲン先生という女子剣道部の顧問がいます。今、彼は中学2年生の担任を持っておりますが、始業式でいつもは、「お前とお前のお前の父親は、俺だ。だから何でも言っておい」と言います。それが生徒の自信ではないでしょうか。なかなか人前では言えませんが、そんなものがその中にあるのかなと私は思っております。

ます。

この世の中、人間として産まれてきたこととはどういうことでしょうか。親父がいて、お袋がいて当たり前のように思っているかもしれませんが、そうではないのです。

### 終わりに――

この世の中で人間として産まれてきたことは、父、母を縁として、天より空の上から地球に向かって糸を垂らして来るんです。地球の上に向かって、糸はふにゃふにゃとなります。川に流れたならば高さより低きに流れる。海に流れたならば、波と一緒に流れて行ってしまいうんでしょう。ところが糸が川をぐんぐん潜って、海の底に沈んだ針の穴の中に、糸を通すぐらいこの世の中で人間として産まれたことは希なことなんです。天より空の上から垂れて来た糸が海に当たって、海の中を何十メートル、何百メートル、何千メートルと潜って、海の底に沈んだ小さな針の、針の穴の中に糸を通すぐらいに、この世の中に人間として産まれることは希なことなんですよ。

私たちは何をしなければいけないかという、一つ目は、「喜びの心を持つ」ということです。なかなか喜びの心を持ってないから、私のお役目だと思ってくださいねということなんです。僕も僕のお役目だと思っております。お役だと思っていれば、学校のPTA役員の方も、保護司さんも、民生委員児童委員さんも、更正保護女性会の人たちも素直な心でやっていけるでしょう。そう思った時に北海道の中に喜びの心がどわくと広がって来るのではないのでしょうか。

二つ目は、こんなに希な人間として産まれたんだから、「少しでも人様にお役に立つ人生を歩んでいこう」。空き缶が落ちていれば空き缶を拾わせていただく。地域の中でお爺ちゃん、お婆ちゃんを見た時に、爺ちゃん大丈夫、お婆ちゃん大丈夫ですかと。子どもたちを見た時に、おはよう、頑張っていていけよ、お帰りと。相手のためにするんではない、自分のために挨拶をするんですよという事です。企業の方にもよく言います。上司から部下に挨拶しなさいと。親たちから子どもたちに挨拶してやろう、

隣組の子どもたちに挨拶をして、声かけして助けてあげよう。これも人様のお役に立つ人生であり、これがF o r Y o u。あなたたちのために、子どもたちのために、そして北海道の道民のために、それがF o r Y o uです。

三つ目はこんなに希な人間に産まれてきたんだから、我が家族の幸せもそうですが、「先ず人様の幸せを願う」。隣の家のお孫さん、お子さんの幸せを願う。自分の大好きな友だちの幸せを願う。親戚の幸せを願う。そこが我が家の幸せがやって来るのではないだろうか。

「喜びの心を持たせていただく」「少しでも人様のお役に立つこの世の人生を歩んでいこう」「先ず人様の幸せを願おう」の三つが、第58回青少年非行防止道民総ぐるみ大会や社会を明るくする運動の原点です。

そして、今年のテーマは防ごう犯罪と非行防止を助けよう、立ち直り、隣同士で助けようということでしょうか。隣の家のお父さんよお母さんよ、隣の家の子が苦しんでいるよ。助けてあげようよ、声かけ

しようよ。

そして、毎月第3日曜日の道民家庭の日に家族の心のふれあいを大切にということ、大人たちよもつと目覚めようよ。俺たちの子どもたちなんだ、俺の自分の家の子もだけじゃない、隣の家の子どもも、その隣の家のこどもも、みんな俺たちの子どもなんだという意識を持っていただくことが、今日の青少年非行防止道民総ぐるみ大会ではないでしょうかね。

さあ全員もう一度立ち上がってください。今から気持ちを入れますからね。みんなでもうというかけ声をあげますよ。

パパはママを、ママはパパを大好きになるぞ。オ

もつともつと今まで以上に、自分の子どもも、地域の子どもも大好きにするぞ。オ

そして喜びの心を持ちながら、もつともつとこの社会の中、北海道の中を明るい街づくりを作っていくぞ。オ

そして地域ぐるみで健全な社会環境づくりを推進していくぞ。オ

犯罪や非行、いじめのない明るい社会づくりを推進するぞ。オ  
青少年の積極的な自立と積極的な社会参加活動を推進するぞ。オ  
道民家庭の日を普及推進していくぞ。オ  
ありがとうございます。

